

# 平和憲法・9条をまもる

岩手の会 ニュース No.3 2

2008.4.5  
発行：平和憲法・9条をまもる  
岩手の会 事務局会議  
連絡先 県生協連・県消団連  
TEL019 - 684 - 2225  
FAX019 - 684 - 2227

## 3.22世界の平和を願う岩手県民のつどい

イラク戦争5年 世界反戦デー

憲法9条・国際法に違反する「テロ特措法」の本質とアフガン情勢を学ぶ

イラク戦争に反対し、世界平和を願い平和憲法・9条を守るという思いを胸に、全県から参加した人々は実質450名を超え、今年一番の暖かな春風の中でピースパレードも盛り上がりました。

2003年3月15日のイラク戦争阻止の3,500名集会・デモ以来、岩手のこの運動は毎年続けられ、「平和憲法を守る県民懇談会」が中心になった「共同行動」として、全国的にも大きな役割を果たしました。今年のこの行動は、東京で2,000名、大都市でも1,000名以下、東北各県の県都でも200名以下であったことから、率直に「イラク戦争の風化」を感じる取り組みであり、岩手の実践は計画を下回る参加者であったとはいえ、「共同行動」の力が示されました。

伊勢崎先生は、日本政府の方針に基づいて、マリキ政権（アメリカの傀儡政権）安定化のために、アフガン各地の部族・武力集団の「武力解除」を自衛隊の協力の下に指揮した自らの経験をもとに、「アフガニスタンの現状」「武力解除による力の空白への対応」「平和憲法・9条を持つ日本への美しい誤解」「インド洋での給油が国際法上は明らかにNATO軍への集団的自衛権の行使」「憲法9条を守りアメリカから独立した真の国際貢献」などについて、パワーポイントを使って詳しく話されました。

参加者の感想文では、特にわが国のマスコミではほとんど報道されないアフガニスタンの部族の対立、歴史的な対立構造（ソビエトの侵略とそれと戦うタリバン勢力、それを支援した当時のアメリカの戦略）と「テロとの戦争」を標榜する今日の空爆を中心とした攻撃、中東におけるアメリカのご都合主義、民主化を標榜する中東支配の戦争と矛盾など、「よく解った」という声が多く、「伊勢崎先生の体験から平和を実現する上で、武力の空白に対する対応の難しさ」「最近の日本の風潮、国際貢献は自衛隊の海外派遣、武力の必要性の危険性」「日本の国際貢献は軍事力でなく平和憲法、平和的手段、民間の力、本当の生きたODA支援」などに対する確信が持てたというものでした。

一方、先生の体験からの「戦場での丸腰での平和貢献の危険性」や「マリキ政権というアメリカの傀儡政権を作るための武力解除」という限定された条件での意見に対する「疑問と割り切れなさ」も一定程度あったといえます。また、少し難しかったと感じた参加者もあった様です。

また、これまでの曲がりなりにも「国連重視の外交」から、



伊勢崎賢治先生（東京外国語大学大学院教授）

「世界のための日米同盟」へ転換した小泉・ブッシュ体制の危険性、その本質・実態を知らされていない国民、真実を報道しないマスコミの実態などの指摘に対して、共感と危険性、新しい決意でのこれからの取り組みなどが、感想文では目立ちました。

小泉・ブッシュ路線（世界のための日米同盟）を受け継ぎ、さらに「戦後レジウムからの脱却」「美しい国へ」を標榜して、「任期中の改憲・9条2項の解体」を声高々に唱えた安倍政権が崩壊しましたが（無責任な政権放り出し）、国民投票法・教育基本法の改悪・自衛隊法の改悪（海外での行動を本来任務に）と防衛省昇格などの「実績」は生きております。福田内閣はあからさまな「改憲」を前面には出していませんが、落合恵子氏のいうように、「ゆで蛙」になる危険性をいつも注意しなければなりません。

自民・民主議員での「新憲法制定議員連盟」は、「9条の会に対抗するような国民的改憲組織の確立とその運動」を決めました。「GHQからの押し付け憲法を自主憲法に変える」路線から、「新しい時代にふさわしい新しい憲法を国民の力で、未来のために」という路線へ軸足を打ちしながら、「国民投票による改憲」を



狙っています。

岩手における「県民過半数署名」など、平和を願う岩手県民の力を有効に発揮する「共同行動・連帯運動」を、さらに強めることの大切さを確認できる3・22のつどいでした。



現在、17市町で開催され、6,309人にこの映画をご覧いただきました。これから更に取り組みを広げ、県内全自治体での上映会を目指したいと思います

### 日本の青空情報

現在、17市町で開催され、6,309人にこの映画をご覧いただきました。これから更に取り組みを広げ、県内全自治体での上映会を目指したいと思います

## 「9の日」署名 行動開始!

冬季の間お休みしていた街頭宣伝・署名行動を3月9日（日）から再開しました。この日は曇り空で、春というにはまだ寒さが感じられる中でしたが、特に若い人の反応がよく、友達みんなで立ち止まって署名してくれ、中には「（よびかけ人の）吉田六太郎先生の教え子です、署名します」という方もありました。



### 次回の署名行動

4月は、9日（水）に大通・野村證券前にて11:30より行います

# 河南の会コンサート

＝ 地域の会ニュース ＝

3月25日、9条河南の会(準備会)・いわて生協中央コープ・医療

生協河南支部が共催し「音楽でつづる平和コンサート」を開催しました。前川慧一さん(レコード音楽演奏家)

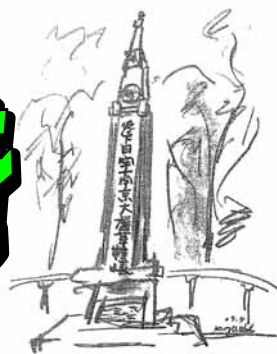


左端が前川さん

プロデュースによるこのコンサートは、陸軍少尉が「この世の名残に」と沖縄に向かう前に聴いたベートーヴェン「運命」、「一本の鉛筆があれば、戦争やいやだと私は書く・・・」と歌った美空ひばりの「一本の鉛筆」など、戦争にまつわるエピソードとその音楽のCD演奏と、戦死した夫への恋文「天国のあなたへ」、特攻隊員の母親への遺書などの朗読を織り交ぜた構成。音と声だけが浮かび上がる静かな雰囲気の中、戦争当時の人々の心情がありありと伝わるものでした。盛岡劇場タウンホールいっぱいの参加者は、時おり涙を拭きながら聞き入っていました。

「3・1ピキニデーに参加して」

## 願いをしっかりとつないで、平和な世界の実現を



### 3・1ピキニデーってなに？

核兵器の廃絶は人類の生存に関わる緊急で死活の問題です。私は、青年時代からずっと平和問題には何らかの形で関わり、国鉄に勤務していた頃の労働組合活動、特に当時の青年部の平和活動と言えば、ベトナム人民支援や沖縄返還、平和友好祭運動、「ノウモアヒロシマ・ナガサキ！」と声高らかに叫び懸命に走っていたことが思い出されます。年を重ね、団塊の世代と言われる年代になった今、若い人達との会話に少し、ギャップを感じることがたびたびあります。ある組合の新入組合員労働学校で話したときには、「工藤さん、国鉄と言うことが話されましたが」Rの間違いですか」と素朴に質問され、国鉄＝日本国有鉄道を知らない時代をあらためて認識させられました。

さらに最近では「3・1ピキニデーってなに？」と問われ、「ピキニデー」も遠くなってきていることを実感します。しかも「南京大虐殺は存在しなかった」などということもしきりにあちこちから出てくる中で、しっかりと自分の目で確かめるために「南京・平和ツアー」にも参加し、現地南京に足を運ぶことで「大虐殺は存在した」こと、「虐殺なんか無かった」ということは「戯れ言」だと確信してきました。従軍慰安婦問題、自衛隊の海外派兵等平和の深刻な危機の中で、今、大事なことは、しっかりと若い仲間達に「平和の話」や憲法が変えられて日本が戦争する国になろうとしていることを伝え、共に運動を広げていくことが大事になっていることを実感します。懸命に生活している多くの国民は、ひたひたと平和の危機が迫ってきていることについては実感が無いかも知れません。だからこそ、今知らせていくことが大事になってきていると思います。

「3・1ピキニデー」は1954年3月1日にピキニ環礁で行われたアメリカによる水爆実験で静岡県の大瀬崎のマグロ漁船第五福丸が多量の放射能を浴びて乗員の久保山愛吉さんが死亡した事件です。このことがきっかけとなって、核廃絶の署名運動が日本全国に広がり、原水爆禁止運動の発端となったことは知られているところです。

上のスケッチは、南京大虐殺があったとされる現場に立つ「記念の塔」です

＝ 地域の会ニュース ＝

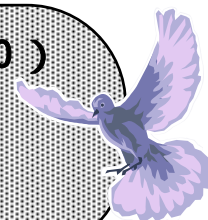
# 一関 井上ひさし講演会

5月9日(金) 平和憲法を守る県南のつどい(主催:同実行委員会)に井上ひさしさんがいらっしゃいます。執筆や講演活動に多忙な井上さんですが、実行委員会は数年間諦めずにお願いを続け、記念講演「思い出の一関、そして憲法」が実現しました。一関市内4合唱団によるベートーヴェン「第九」の演奏も決まり、実行委員会では参加の呼びかけに力を入れています。

とき：5月9日(金) 開演18:30～(開場18:00)

ところ：一関文化ホール大ホール

参加費：一般1000円 中高生300円



## パールハーバーは知っているが ヒロシマ・ナガサキを知らないアメリカ人が多い

3月1日から2日まで「被災54年2008年3・1ピキニデー集会」「日本原水協全国集会」が、静岡で開催されました。集会には1,500人が参加し、岩手からは19歳の学生はじめ久慈の女性団体、自治体職場から等から9名が参加しました。集会は、「暮らしに原子力空母はいらない」「核兵器のない21世紀を」の横断幕等でアピールする仲間や「核兵器廃絶のために2010年に向かってがんばろう」の唱和も響き、熱気高まる中で開催されました。行動提起にたった高草木博原水協事務局長が2010年の核不拡散条約(NPT)再検討会議で核兵器廃絶の「明確な約束」を実行させるために地球的規模の行動を強調した他、世界では、核兵器廃絶の声がわき立、アメリカのかつての政権中枢にいた人たち(キッシンジャー元国務長官らかつての核抑止論者達)も「核兵器のない世界」を提唱するようになってきていると指摘。「核兵器のない世界のための行動キャンペーン」として、核保有国をはじめ、各国政府が核兵器全面禁止の交渉のテーブルにつくよう行動を強めること。そのための核兵器廃絶署名をおおきく広げていくこと等呼びかけました。国際交流会議では中国や韓国からの代表者も「非核・平和のアジアの実現」に向けて連帯と協力を積極的に呼びかけていました。核兵器廃絶のために取り組んでいるアメリカの代表からは、「パールハーバーは知っているがヒロシマ・ナガサキを知らないアメリカ人が多い」との報告もありました。こうしたことから今こそ、草の根の運動強化と世界規模での反核のうねりをつくっていくことの大切さを実感させられました。そして、私たちが日常的に取り組んでいる憲法署名や核兵器廃絶署名、6・9宣伝行動や平和行進等の日本の草の根の運動が世界の反核・平和運動と連動し、世界の平和運動の発信基地的役割を果たしていることに大きな確信を持つことが出来た集会でした。

戦争屋から日本国憲法をしっかりと守り抜くことこそ、確かな国際貢献であることと、人類と核兵器は共存しないこと。そのために、今在る、私たちに、この運動を「しっかりとつなげていく」歴史のランナーとしての役割があることを実感します。

いわて労連 工藤 和雄

